

米沢帯広市長と帯広三条高

生徒の提案実現に向け

緑ヶ丘公園魅力向上へ意見交換



【帯広発】帯広市の米沢則寿市長は7日、帯広三条高校（合浦英則校長）の生徒と市内の緑ヶ丘公園の魅力向上に向けて意見交換した。写真＝。米沢市長によ

る市民との対話事業「市民トーク」の一環。公園内施設や公園までの道中など、生徒が研究している3テーマに関して意見を交わし、実現に向けて必要な考えや視点を伝えた。

米沢市長は、市民にまちづくりの考え方を伝えるながら意見交換する対話事業「市民トーク」を実施している。本年度は今回で3回目。帯広三条高は、3年生選択科目「自己表現」の中で、市職員による協力のもと市内の緑ヶ丘公園の魅力向上に向けた研究を推進。生徒たちは「公園内で実施するイベント企画」「公園内施設等の整備」「公園までの道中の工夫」の3テーマで班に分かれ研究している。

この日、米沢市長は各班の研究成果や意見を聞き、市や市政、公的施設の役割等を交えて話し合った。うち公園までの道中に関して生徒たちは「緑ヶ丘公園に行く目的が必要」と考え、スタンプラリー企画を提案。スタンプを全て集めることで絵が浮かび上がるなどの工夫も添えた。

米沢市長は、目的がないと向かわないという生徒たちの発想に理解を示し「最近では2次元バーコードでスタンプラリーを実施することもできる」と追加提案した。

また、道中を石畳や外灯などによってヨーロッパ風に仕立て、公園にたどり着くまでにも楽しめる工夫を提案。米沢市長は、石畳は車両に負担がかかることや継続的なメンテナンスが必要となるなど、実現後の予測を伝えた上で「道中も楽しんでほしいという気持ちが伝わった」と話した。

意見交換後、米沢市長は「人と森、公園とのつながりは、普段から考えないと意識することが難しい」とし「自分たちがどんな人たちとどんな場所で、どんな時間を共有できたら幸せか、今後も考えてほしい」と呼びかけた。